

2016年2月号(第65号)

発行/企画 社協・編集会議

社会福祉法人 横浜市戸塚区社会福祉協議会  
(戸塚区社協といいます)  
住所: 〒244-0003 戸塚区戸塚町167-25  
TEL: 045-866-8434  
FAX: 045-862-5890  
E-mail: info@totsukashakyo.com  
http://totsukashakyo.com/

# 社協とつか

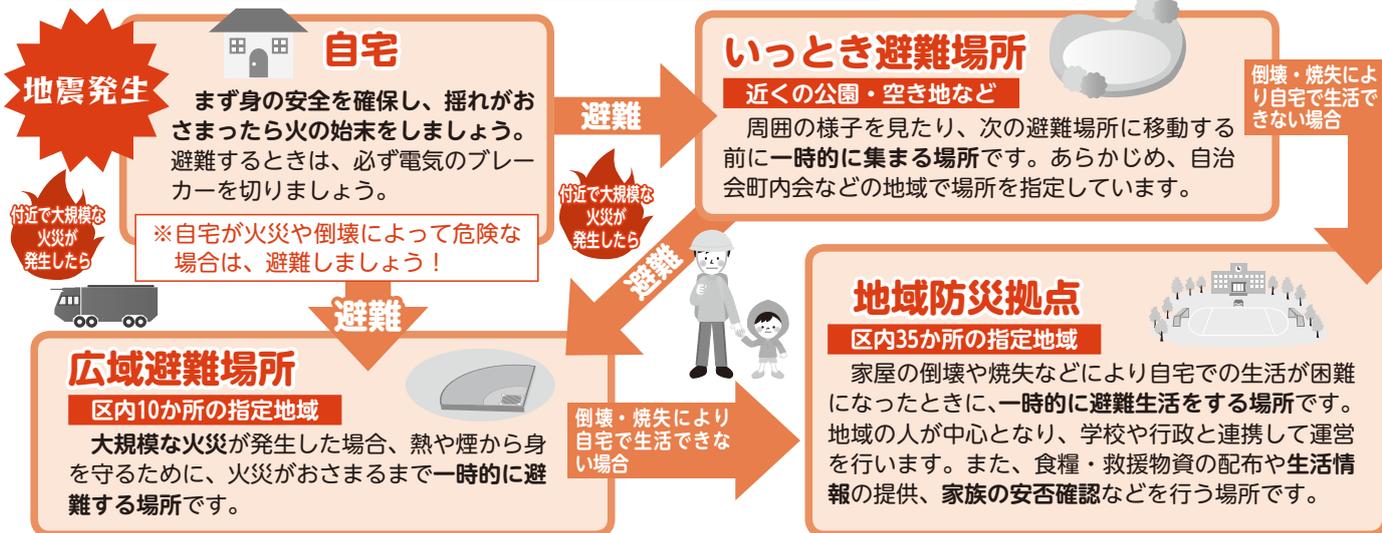
## いざというときに備えて

### もし今、戸塚区で大地震が起きたら…

東日本大震災から、3月11日で5年目を迎えます。日頃の備えをしておくことで、大切な命を守ることができ、震災の被害を最小限に抑えることができます。



### 避難の流れや方法を確認しておこう！ 地震編



※避難場所は、区役所ホームページ、「戸塚区防災・区民マップ」より確認できます。(http://www.city.yokohama.lg.jp/totsuka/somu/bousai/)

### 災害ボランティアセンターの仕組み

戸塚区社協では戸塚区役所からの要請に基づき、「災害ボランティアセンター」を立ち上げます。全国から駆けつけるボランティアの力を集約し、地域の復旧・復興につなげます。

### イベント情報

### 防災フェスティバル2016

日時: 3月12日(土) 11:00開場  
場所: 戸塚区総合庁舎3階多目的ホール大  
※詳しくは、戸塚区社協まで  
内容: ○講演会 (13:00~14:30)  
講師 常総市社協事務局長 滝本栄氏  
○被災地物産販売コーナー  
○防災・減災に関する体験・展示コーナーなど

### 災害ボランティアセンターとは

全国から駆けつけるボランティアが充分な力を発揮できるよう、地域防災拠点・行政と連携しながら被災状況等の情報を集め、ボランティアの派遣や調整を行います。戸塚区では、戸塚区社協が「とつか災害救援活動ネットワーク」(ボランティア団体)と一緒にセンターの運営を担います。



災害ボランティアセンターシミュレーションの様子

## 地域の活動紹介コーナー

### 『防災訓練の取り組み』～自助・共助のために～ 川上地区

11月15日(日)に、川上小学校地域防災拠点で訓練が実施され、子どもから大人まで291人が集まりました。訓練では、緊急給水栓の見学、アマチュア無線による本部との交信を行った他、川上地区連合町内会ボランティアグループ「わくわくサポート隊」より家具転倒防止用の器具について展示と説明がありました。

公助の前にまず自助、共助。自分の身は自分で守ること(自助)、そして地域で共に助け合うこと(共助)が大切です。訓練の実施により、防災意識を高めると同時に地域住民のつながりを深めるきっかけとなっています。



#### \*川上地区連合町内会ボランティアグループ「わくわくサポート隊」とは？

家具転倒防止対策を中心に、高齢者世帯でちょっと困ったときのお手伝いをするボランティアグループです。

秋葉町、前田町で活動しています。

大地震による多くの被害は、家具の転倒・落下であると言われています。

いつ起きてもおかしくない大地震に対する家具転倒防止対策には、電動工具を使わずに家庭でできる事が沢山あります。関心のある方はお気軽にご相談ください。

わくわくサポート隊 山本勇さん

### 舞岡台自治会の『要援護者支援対策』について 舞岡地区

舞岡台自治会では、地震などの災害が発生した場合に、高齢者や障がい者等自力で避難することが困難な要援護者を自治会で助け合う仕組み、「要援護者支援対策」を行っています。支援者は、要援護者の安否確認や避難が必要な場合はその手助けを行います。

自治会・介援隊(防災防犯対策を考える会員)のメンバーを中心に、要援護者・支援者の募集登録、要援護者の支援内容の聞き取り調査・支援者説明会を開催している他、12のエリア別要援護者と支援者用マップ・新規支援者用名札・安否確認済札を作成し配布しています。

活動開始から4年が過ぎ、現在では要援護者206名、支援者168名が登録をしています。



9月の南舞岡小学校地域防災拠点訓練では、295名が参加しました。地元の高校生も積極的に参加しています。



#### ご存知ですか? 『コミュニケーションボード』

～セイフティーネットプロジェクト横浜(Sプロ横浜)の取り組み～  
コミュニケーションが苦手な方がイラストを指さすことで自分の意思を伝えるツールです。「災害用」ボードでは、障がいのある方が避難所等で過ごす際にも役立ちます。

#### 防災訓練等で出前講座をご活用ください

Sプロ横浜では、災害時に避難場所等で、障がい者への支援のポイントやコミュニケーションボードの使い方等について、出前講座を行っています。

●問合せ・申込は戸塚区社協まで

#### 『黄色』は『支援してほしい』のサインです

障がいのある人等が災害時に必要な支援を受けることができるよう、「支援してほしい」人は「黄色」、「支援できる」人は「緑色」のものを身につけよう、という取り組みを進めています。災害時の備えとして、バンダナやハンカチなどを身につけましょう。



※コミュニケーションボードはSプロ横浜ホームページよりダウンロードできます(<http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/safetynet/safetynet.html>)

# 福祉人材シリーズ 戸塚の輝くひと

vol. 3



右が、川端亜希子さんです

社会福祉法人クローバー（舞岡町、原宿、上矢部、矢部町等）

かわばた あ き こ  
川端亜希子さん

## —仕事内容を教えてください—

社会福祉法人クローバーは、戸塚区と泉区に事業所（グループホーム、障がい者施設等）を置き、障がいのある方やその家族が暮らしやすくなるようなサービス提供を行っています。普段は、利用者の何気ない話からお困りごとまで、様々な話を聞き、一緒に考える直接支援と法人運営の事務に携わっています。

## —なぜこの仕事に就きたいと思われたのですか—

学生時代、養護学校の文化祭に参加したときに、楽しそうに過ごしている姿を見て、障がいのある方と関われるこの仕事に魅力を感じました。

## —仕事の魅力を教えてください—

信頼関係を築くことができたときの喜びが、この仕事の魅力だと思います。また、利用者のみなさんが自分の気持ちを話して下さるようになると、信頼してくれているのかなととても嬉しくなります。命を預かっているという点で責任ある仕事ではありますが、利用者の皆さんと過ごす時間はとても楽しいです。

## —心がけていることはありますか—

同じ目線に立ち、何事も一緒に楽しむことです。すると、自然と笑顔が生まれます。

## —「社協とつか」読者へメッセージをお願いします—

障がいのある方の暮らしを、まずは知ってほしいです。そして、地域の方ともしっかりと交流ができると嬉しいと思っています。ぜひ見学に来てください。グループホームでは調理ボランティアも募集しています！

## 報告 第1回 よこはま地域福祉フォーラム「おたがいさま」の縁づくり

日時：平成27年12月11日(金)

主催：横浜市社会福祉協議会・18区社会福祉協議会

戸塚区から3事例発表

### ■分科会1 「一人ひとりの困りごとに向き合う地域づくり」

#### ◇移動支援から広がる地域の輪（柏尾地区社会福祉協議会）

障がいのある小学生の「付き添い」支援について相談を受けた戸塚区社協は、日常的な見守り体制づくりのため地域とともに検討を開始。新たな移動支援の活動が生まれ、取組みは口コミで地域に広がり、さらに新しい動きにつながり始めています。

今回の相談をきっかけに、柏尾地区社協では「誰もが身近に気軽に相談できる体制づくり」の実現に向けて取り組んでいます。



柏尾地区社会福祉協議会  
会長 宮本 英雄氏(左)  
事務局長 秋山 洋子氏(右)

### ■分科会4 「地域と協働（つながる）」～社会福祉法人・施設の地域貢献～

#### ①社会福祉法人と地域のつながりを考える（戸塚区社会福祉協議会）

「社会福祉法人」のあり方が問われる中、戸塚区社協は区内法人に呼び掛け、「つながる連絡会」を立ち上げました。

課題の解決に向けて、地域とつながり社会福祉法人ができることは何か。法人単位ではなく、ネットワークを生かした取組の可能性を検討しています。



戸塚区社会福祉協議会専門機関部会  
部会長 小倉 徹氏(右)  
戸塚区社会福祉協議会 山川職員(左)

#### ②介護予防は地域とともに（社会福祉法人朋光会特別養護老人ホーム太陽の國）

周辺地域で介護予防への関心の高さを捉えた太陽の國。地域ケアプラザと連携して講座を開催しサロンを立ち上げると、徐々に参加者が増え、特別養護老人ホームの中でホーム職員が介護予防に取り組み始めました。施設の専門性を基盤に、地域ケアプラザと連携をしながら取り組んでいます。



社会福祉法人 朋光会  
特別養護老人ホーム 太陽の國  
岡安 厚氏(右) 下田 恵子氏(左)



# ボランティア情報 2016年2月発行

社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会

障がい児・者のための移動に関する相談・情報提供

## 「戸塚区移動情報センター」の紹介

戸塚区移動情報センターは、障がいのある方が外出するための相談や情報提供の窓口です。障がいのある方やご家族からの相談を受け、外出の目的や行き先などニーズに沿った情報提供を行います。

平成28年1月より横浜市ガイドボランティア事業のガイドボランティア事務取扱団体として、ガイドボランティアに関する支援を行います。

※「横浜市ガイドボランティア事業」とは、障がいのある方の外出付き添いボランティアに対し、奨励金が支払われる事業です。  
(対象要件を満たす場合に限り)

※戸塚区社協が横浜市より受託し、運営しています。

まずはお気軽にご相談ください。  
専用電話：045-862-5091（相談無料）  
相談受付：月曜～金曜 9時～17時  
※祝日・年末年始を除く

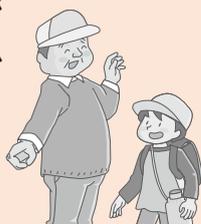
## ～障がい児の外出付き添いボランティア募集～

内容：障がい児の登下校や学童保育までの付き添いなど（特に新入学の小  
学生通学支援）

日時：週1回から可

（月～金の朝・夕の登下校時間帯）

場所：主に戸塚区内



問合せ・申込は戸塚区社協まで

## 「送迎サービス」の紹介

送迎サービスは、戸塚区内在住の高齢者や障がい児・者が、公共交通機関（バス、電車、タクシー）の利用や家族などによる移送が困難な場合に、戸塚区社協の車両でボランティアの運転により外出のお手伝いをする事業です。送迎の範囲は、横浜市内全域と近隣市一部です。

### ～送迎サービス運転ボランティア募集～

条件：運転免許をお持ちの  
75歳までの方  
日時：月曜～金曜  
9時～17時



## 戸塚区社協ふれあい助成金 説明会のお知らせ

戸塚区内で活動する市民活動団体・障がい当事者および家族団体が地域福祉推進・障がい福祉推進を目的として行う事業に対して助成します。

日時：平成28年3月4日（金）  
①10時～11時 ②15時～16時  
（①、②ともに同じ内容です）

会場：フレンズ戸塚 多目的研修室

申込み：要事前申込み。電話またはFaxで希望時間帯・団体名・参加者名をお知らせください。※原則1団体1名

**善意銀行とは？** みなさまから寄せられた善意（寄付金・物品）を区社協で預かり、地域の福祉活動に配分する仕組みです。

**善意銀行記事（平成26年12月1日～平成27年9月30日）ありがとうございました。（順不同、敬称略）**

戸塚文化協会、JA横浜中川・緑園都市支店農業まつり実行委員会、日立INSソフトウェア株式会社、株式会社日立ICTビジネスサービス、株式会社日立アドバンスシステムズ、株式会社日立産業制御ソリューションズ、株式会社日立システムズ、株式会社日立情映テック、株式会社日立情報通信エンジニアリング、株式会社日立ソリューションズ、株式会社日立製作所ITプラットフォーム事業本部、株式会社日立製作所通信ネットワーク事業部、株式会社日立製作所横浜支社、ダイセーロジスティクス株式会社横浜ハブセンター、戸塚ルーテル教会附属幼稚園、公益社団法人戸塚法人会、戸塚中学校第七期生「さくら会」、とつかルーテル保育園有志、西村智子、戸塚区民踊舞踊連盟、GS92.OG会佐々木恵美子、斉藤すみるカラオケ教室、社会福祉法人横浜市福祉サービス協会横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ、神奈川土建一般労働組合横浜戸塚支部、プリヂストン労働組合横浜支部、戸塚フラダンス&ハワイアンチャリティフェスティバル実行委員会、山田さち子、六国建設株式会社、大洋建設株式会社

## 編集 後記

近年、多くの災害が発生しています。社協とつかとして久しぶりに「災害」をテーマにしました。昨年、横浜市が実施した「横浜市民の危機管理アンケート調査」の結果では、自助・共助について知っていますかという質問に対し、「聞いたことがない」53%、「聞いたことがあるが、意味は知らない」17%など低い結果となっています。2面の地域の活動紹介コーナーにも地域における自助・共助の取り組みについて掲載しました。

今後30年以内に、大地震が70%の確立で起こると言われています。もっともっと防災意識を高めていきましょう。  
編集長 大副祥一

「社協とつか」は区民の方々から寄せられた共同募金の一部を用いて発行しています。